

酪農試験場だより

No. 74



スーパーカウ娘牛第1号

今月の内容

- 1 平成7年度の試験研究・事業について
- 2 スーパーカウ娘牛ぞくぞく誕生！！
- 3 夏作でのロールベールサイレージ体系の利用

平成8年度の試験研究・事業について



酪農試験場の試験研究及び業務の推進につきまして、格別のご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

最近の酪農を取り巻く情勢は、ウルグアイ・ラウンド農業合意成立後2年目を迎え、先行き不透明感、乳価の低迷、牛乳・乳製品の消費及び飼料価格の不安定、環境問題など引き続き厳しい状況にあります。

また、今年度は、『とちぎ新時代創造計画三期計画』と、その部門計画としての「首都圏農業推進プラン」及び「栃木県酪農肉用牛生産近代化計画」実現のスタートとなる重要な年です。このような状況の中、酪農試験場では「酪農経営支援システムの検討」「高エネルギー飼料開発試験」「牛の性別別試験」「外来雑草防除試験」「緩効性肥料施用試験」「スーパーカウ整備事業」「自給飼料分析指導事業」等10課題の試験研究と4事業を実施することとしています。

なお、平成8年4月1日付けの定期異動により場内体制が次のとおり変わりましたが、前年同様よろしく願いたします。

<p>栃木県酪農試験場 Tel 0287-36-0230</p> <p>場長 藤田 繁</p> <p>技幹 郷間 和夫</p> <p>場長補佐兼庶務課長 鈴木 昭夫</p> <p>場長補佐 鈴木 翼</p>	<p>経営調査部 Tel 0287-36-0280</p> <p>部長 高根沢 文夫</p> <p>研究員 齋藤 実</p>
<p>飼養技術部 Tel 0287-36-0768</p> <p>部長 杉本 俊昭</p> <p>研究員 室井 章一</p> <p>研究員 阿久津 充</p>	<p>改良繁殖部 Tel 0287-36-0428</p> <p>部長 齋藤 光男</p> <p>主任研究員 関澤 文夫</p> <p>研究員 岡崎 克美</p> <p>研究員 濱田 勉</p>
<p>草地飼料部 Tel 0287-36-0516</p> <p>部長 千枝 健一</p> <p>研究員 星 一好</p> <p>研究員 齋藤 憲夫</p>	<p>南那須育成牧場 Tel 0287-88-7878</p> <p>牧場長(兼) 郷間 和夫</p> <p>特別研究員 石松 茂英</p> <p>特別研究員 加藤 和彦</p> <p>研究員 沼野井 憲一</p>

スーパーカウの娘牛ぞくぞく誕生！！



県ではスーパーカウ8頭をアメリカ、カナダから平成5～6年度に輸入し、これらから採卵した受精卵を配布しています。すでに、平成6年度に80個、平成7年度には77個の受精卵を配布しました。スーパーカウの受精卵を移植して生まれた娘牛の第1号は、高根沢町の荒井康夫さん宅で平成7年11月4日に生産され、新聞等でも話題となりました。その後も続々と生まれており、平成8年3月31日現在で14頭が分娩して、7頭の雌牛が生産されています。スーパーカウは泌乳能力も高く、年間3～5回の採卵をしながらでも10,000kg以上の乳量を記録しました。したがって、これらの娘牛たちは能力的にも期待される牛ですから、育成には十分注意して立派な成牛に育てて欲しいと思います。成牛になったら、採卵しスーパーカウの子孫を増やし、また、受精卵がたくさん採れば、その地域で改良の素牛として利用して下さい。

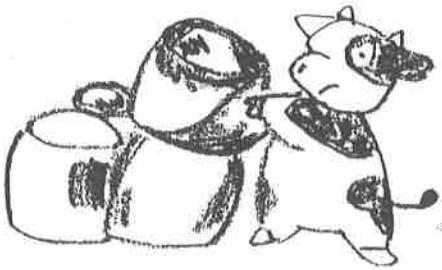
スーパーカウ受精卵の配布希望はたくさんありますが、受精卵が足りなくて、なかなか希望者全員に配布できず申し訳ありません。平成8年度にはスーパーカウの受精卵を120個配布する予定です。スーパーカウは8頭ですが、全頭から採卵するほかに、娘牛も未経産のうちから採卵（ヴァージンフラッシュ）をしたりして、できるだけ多くの受精卵を生産して配布したいと考えています。

すでに157個配布しましたが、配布を受けた受精卵を、まだ移植していない方もいらっしゃるようです。1個しかないからなかなか移植できないとか、良い受卵牛がないとか、いろいろと理由はあると思いますが、移植しないと子牛は生まれませんし、子牛が生まれないと自分の牛群の改良も進みません。まだ、ボンベの中で眠っているスーパーカウの受精卵があれば、できるだけ早く移植して下さい。その際、スーパーカウの受精卵ですから、子牛が大きくなり、未経産牛では難産になる可能性がありますので、受卵牛はできるだけ、経産牛にして下さい。

スーパーカウは能力ばかりでなく、体型的にも優れていますので、スーパーカウの娘牛や孫牛が次回あるいは次回の全国ホルスタイン共進会に出場できることを期待して、スーパーカウの受精卵の生産に努力していきたいと思います。

(改良繁殖部 関澤 文夫)

夏作でのロールバールサイレージ体系の利用



ロールバールサイレージ体系は、省力的で天候即応性にすぐれる等の利点から、急速に普及してきた調製技術ですが、現在のところトウモロコシのような長大作物では利用できず、主にイタリアンライグラスなどの草型作物が栽培される、冬作での利用が多いようです。

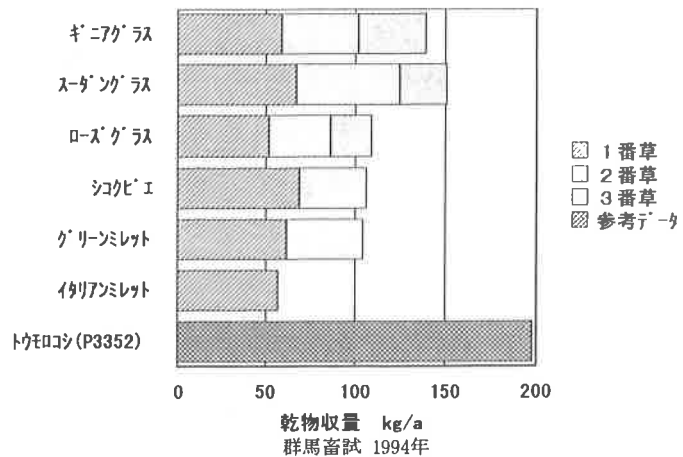
しかし、このような状況では調製及び貯蔵のための設備が二重に必要となるため、夏作にも草型作物を取り入れる酪農家もでてきました。ロールバールサイレージ体系を夏作にも導入すれば、設備費の低減だけでなく、栽培期間にゆとりが持てるなどのメリットもありますが、以下のようなデメリットも存在します。

まず、トウモロコシと比較して、収量性や栄養価が低いことが挙げられます。トウモロコシと比較すると乾物収量で3/4以下に、TDN収量で約半分になってしまいます。また、栽培方法が確立されていないことが挙げられます。特に、スーダングラスを除き生育初期の雑草防除は難しいものがあります。その他、硝酸態窒素含量が比較的高いことや嗜好性なども心配事項といえます。

このように、まだまだ手探りの段階といえる夏作でのロールバールサイレージ体系の利用ですが、酪農試験場ではこの体系の実用化にむけて、現在、①体系全体の労力・コスト等の総合的な検討、②最も有望な草種と思われるスーダングラスの品種比較などの試験を実施しています。

(草地飼料部 齋藤 憲夫)

●夏作に利用可能な作物の乾物収量



酪農試験場だより 栃木県酪農試験場

No74

〒329-27西那須野町千本松298

平成8年5月1日

電話0287-36-0280